



日本赤十字社

京都第一赤十字病院

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

日赤

泉山長
俊朝

京都第一日赤日より

き

す

な

人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

夏号

2013年8月発行

vol. 49

Contents

通院治療センター開設	2,3
下肢閉塞性動脈硬化症と重症虚血肢	4,5
骨盤臓器脱(Pelvic organ prolapse, POP)について	6
入退院管理室について	7

残暑厳しい日が続きますが、折に触れ秋の気配が
感じられる季節となりました。

ところで、九月は救急・災害の強化月間であり、多
くの防災訓練が開催されます。日赤の救急・災害への
取り組みの背景には赤十字社の理念と基本原則が
あるのですが、「人間を救うのは人間だ!~Our
world. Your move.」というスローガンを広めており、
ご存じの方も多く、大きな共感を得ています。

当院の理念も、「人道と奉仕の赤十字精神に基づ
き、全ての人の権利を尊重し、安心できる適切な医療
を行います」を謳っております。基本方針としては、急

性病医療・がん診療・周産期医療・災害医療の推進、
地域の連携と健康への貢献、次世代の医療専門職の
養成、そして、病院のホスピタリティの基盤となる以
下の方針です。

「全ての職員は、優しい心を持って対応するととも
に、常に研鑽し自らを高め、患者さまの安心・安全な
医療に努めます」

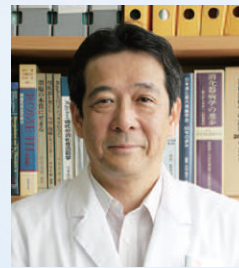
今後とも少しでも使命を果たせるよう取り組んでい
きたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

京都第一赤十字病院 副院長

池田 栄人

通院治療センター 開設

副院長・通院治療センター長 吉田 憲正



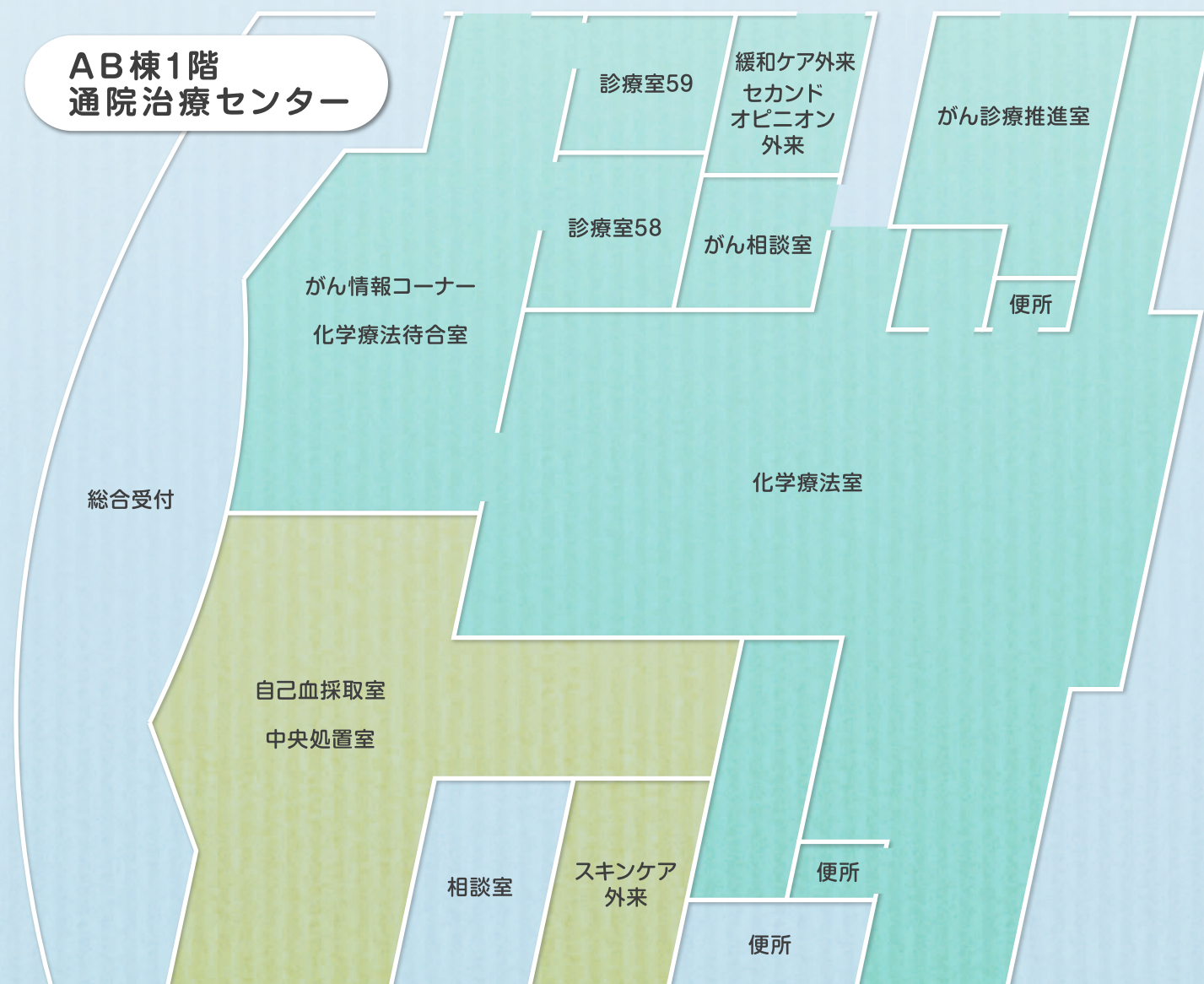
2013年6月17日より、外来エリアの一部をリニューアルし、通院治療センターとしてオープンしました。旧地域連携室のスペースおよび化学療法室の一部を改築し、化学療法診察室・待合室・がん情報コーナー、緩和ケアおよびセカンドオピニオン外来診察室、がん相談室を設置し、旧医事2課のスペースを中央処置室に改築しました。

特に、がん診療連携拠点病院としての機能強化を図ることを目的に、通院患者さんの生活の質(QOL)を重視する観点から化学療法、緩和ケア、がんに関する相談・指導を一つのユニットで受けていただけるように動線を短くして配置しています。

各部署では右記の業務を行います。

リラックスできる環境で各部署の専門スタッフが患者さん一人ひとりに満足いただける治療を提供し療養を支援していきたいと考えています。

AB棟1階 通院治療センター



がん診療推進室

患者データベースや診療統計を収集し、治療成績等を管理する。
がん診療連携拠点病院関連業務、多種職カンファレンス(カンサーボード等)などを行う。

化学療法室

外来化学療法として悪性疾患、炎症性疾患、自己免疫性疾患の薬物療法を行う。
診察室機能も有する。

がん情報コーナー

がんに関する各種情報(図書、Webなど)を患者さんに提供する。

緩和ケア外来

緩和ケアおよびセカンドオピニオン外来を行う

がん相談室

がんに関する相談およびカウンセリング、抗がん剤や麻薬などの薬剤指導を行う。

中央処置室

外来患者の通常点滴、自己血採取、腹水・胸水穿刺、骨髄穿刺などを行う。

スキンケア外来

ストーマ患者および褥瘡患者の指導を行う。



自己血採取室／中央処置室



化学療法室



がん情報コーナー／化学療法待合室

通院治療センター 構成員

センター長

吉田 憲正 (副院長)

副センター長

谷口 史洋 (外科副部長)

岩坪 祥子 (看護副部長)

センター員

内匠 千恵子 (呼吸器内科副部長)

藤田 和子 (緩和ケア内科副部長)

土谷 有美 (製剤課長)

加藤 明子 (看護師長)

田中 結美 (看護師長)

澤田 由紀子 (看護師長)

中満 順子 (外来係長)

中森 真由美 (外来係長)

上門 充 (地域医療連携課長)

吉田 多希 (医事2課長)

坂根 ひとみ (主事、がん診療推進室)

下肢閉塞性動脈硬化症 と 重症虚血肢

生命予後・QOLの改善、切断回避を目指して

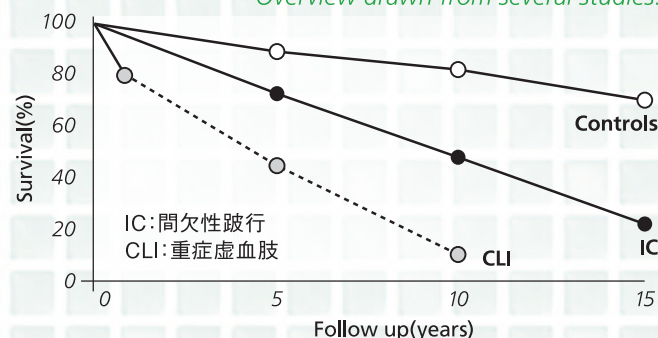
循環器内科(重症虚血肢外来) 木村 雅喜

下肢閉塞性動脈硬化症とは

- 下肢末梢動脈の閉塞、狭窄により虚血症状を呈する疾患で、冷感・間欠性跛行・安静時疼痛・難治性潰瘍・壊疽などを生じます。
- 全身の動脈硬化を引き起こすため、冠動脈・頸動脈・腎動脈など全身の動脈硬化の評価が予後改善に必要です。
- 間欠性跛行症例の5年死亡率は25%にも及び、そのうち75%は心血管イベントです。



Survival of patients with peripheral arterial disease
Overview drawn from several studies.



糖尿病・高血圧・脂質代謝異常・喫煙など

リスクファクターを有し、

足背動脈触知不良などございましたら、

一度ご紹介をご検討ください。

数年以内に心血管イベントを

生じるかもしれません。

下肢閉塞性動脈硬化症の治療

リスクファクターの管理、治療

スタチン・糖尿病治療薬・降圧剤など

併存 動脈硬化性疾患に対する治療

冠動脈ステント留置・バイパス術など

薬物加療＋運動療法

(包括的心臓大血管リハビリテーション)

シロスタゾール・サルボグレラート・クロピドグレルなど

血行再建

手術 ————— バイパス・血栓内膜摘除など

血管内治療 ————— デバイスの進化・冠動脈で培った技術により飛躍的に症例数が増加しております。

ハイブリッド治療 — 心臓血管外科と常時協議、検討できる体制であり、最善の血行再建をしばしば合同で実施しております。



治療前



治療後

重症虚血肢とは

- 重症の下肢閉塞性動脈硬化症で、安静時疼痛・難治性潰瘍・壊疽を呈する状態です。
- 救肢(切断回避)のためには、早急な血行再建ならびに創部の加療が必要です。
- 救命率向上のためには、冠動脈など併存疾患の精査加療、複数の診療科による集学的加療が必要です。(当院は診療科の垣根が低く、非常に連携の取りやすい環境です)
- 1年以内の死亡率25%、下肢切断率は30%と予後不良な疾患です。
- 血行再建のみでは不十分で、創傷治療が必要です。(当院では皮膚科、形成外科、整形外科と綿密な連携を取り加療を実施しております)。

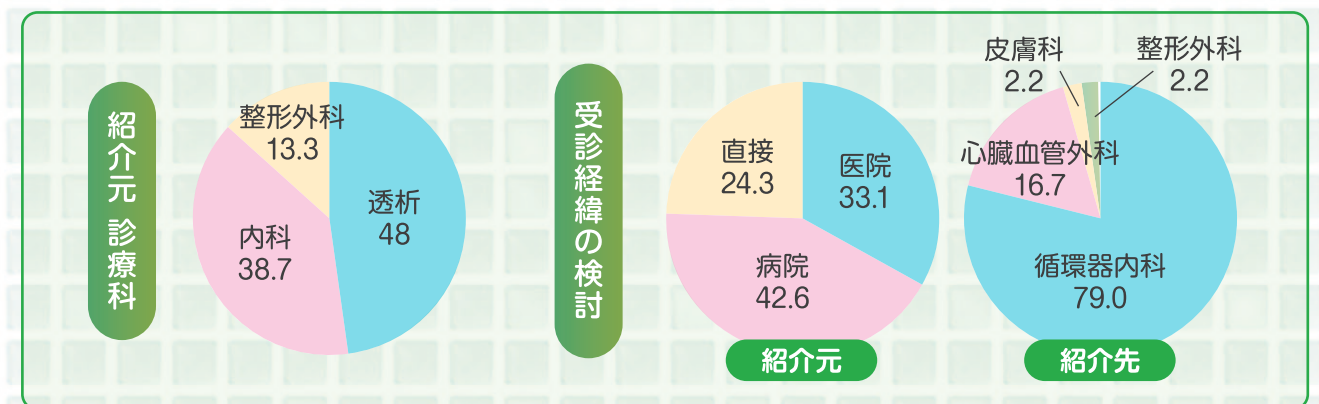
重症虚血肢外来

木曜日15時～

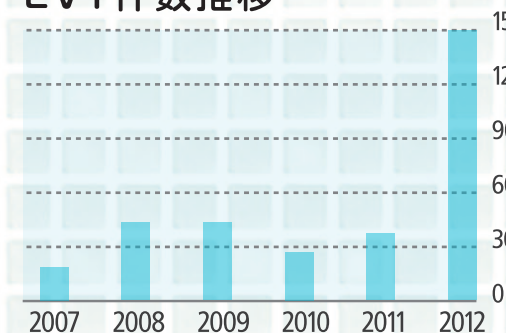
地域連携室を介して予約を

早期診断、早期治療が救肢には重要です。

疑わしい症例がございましたら、速やかにご紹介をお願い致します。



EVT件数推移



45症例 重症虚血肢にEVT

平均年齢 73.9歳
男性 46.7%
糖尿病 62.2%
高血圧症 68.9%
透析 53.3%
喫煙 51.1%

Rutherford 4 12例 Rutherford 6 6例
Rutherford 5 27例
現時点での成績
死亡: 6症例(13%)
肺炎1、癌2、心室細動1、腸管壊疽1、感染症1
大切断: 5症例(11%)
膝上切断3例、膝上切断2例
2012.1～2012.12

学会発表

国内・海外発表にも積極的に取り組んでおります。

TCT: Transcatheter Cardiovascular Therapeutics 2011 challenging case award, GISE 2011 Best Young Interventional Case Award first prize, Multidisciplinary European Endovascular 2013など



MEET 2013 ROMA (KIMURA)



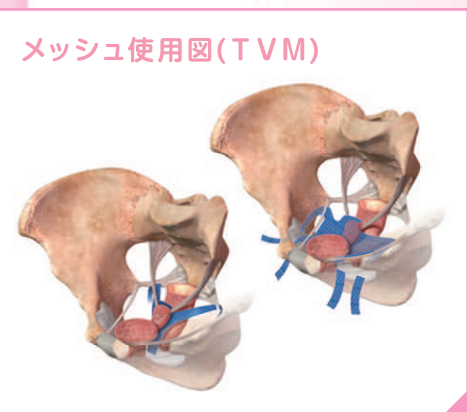
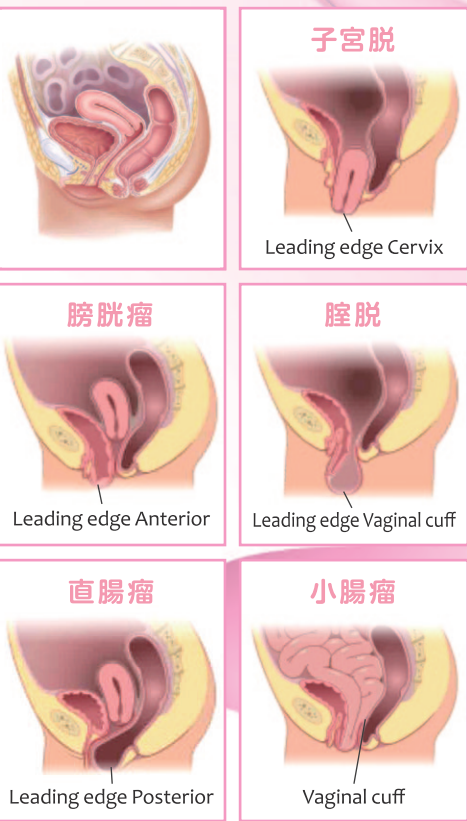
GISE 2011 GENOVA (KIMURA)

骨盤臓器脱(Pelvic organ prolapse、POP)について

現在産婦人科診療は、主に「周産期」「生殖」「腫瘍」と「女性のヘルスケア」の4本柱に分ける事が出来ます。その中でも「女性のヘルスケア」は、高齢化社会を迎えてますます重要になってきています。特にPOPは重要な治療分野です。POPとは、骨盤内臓器が腔内、または腔外に脱出する状態であり、脱出する部位により子宮脱・膀胱脱・直腸脱と呼ばれています。この原因としては出産、加齢や肥満により骨盤底筋群が傷つき、骨盤臓器が腔へ落ちてくる事によって起こります。自覚症状としては、排尿・排便障害、下腹部の違和感、外陰部の腫瘍感・脱出感などがあり、女性のQOLを大きく損なう疾患です。POPの治療としては薬物療法はなく、保存的治療としては骨盤底筋体操や、リングペッサリーという腔内矯正器具を挿入し脱出する子宮を保持する方法で、副作用として違和感や帯下の増量や出血等があり、また定期的な交換が必要でした。

根本的な治療法としては手術療法ですが、当院では以前より年間約30例前後の手術を行っており、京都ではPOP治療の有数の病院でした。手術は腔式に子宮を摘出し、腔壁を形成するいわゆる「従来法」が主な治療法で、高齢者においては負担の少ない腔閉鎖術等を行ってきました。当院では2008年よりメッシュを使用するTVM(Tension-free Vaginal Mesh)手術を導入しました。これは2000年にフランスで始められ、日本でも2005年に導入され急速に行われてきている手術療法です。これはポリプロピレンのメッシュを腔に切開を加えて腔壁の裏側に埋め込み、メッシュにより脱出臓器を支える力を補強する術式です。下記の表は2008年以降の当院での手術件数と手術術式を表したものです。手術件数は年々増加し全国でも有数の病院になっています。今後も患者様の年齢や生活環境に合わせた手術方法を選択し、中高年女性に快適な生活を送れる様に支援していきたいと考えています。

第二産婦人科 部長 山田 俊夫



	2008年 4月～	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年 1～6月
TVM	25	54	44	32	35	17
VTH+腔壁形成	13	6	0	10	14	13
VTH+腔閉鎖	0	2	12	14	11	10
腔閉鎖又は腔切除	1	2	8	4	10	6
仙骨腔固定術	0	0	1	0	0	0
マンチェスター手術	0	0	0	0	0	1
	39	64	65	60	70	47

(件数)

入退院管理室 (入院受付・退院調整)について

副院長・入退院管理室 副室長 河野 義雄



本年3月より、B7階に入退院管理室(入院管理課、退院支援課)を開設いたしました。病床管理を一括して行う院長直轄の部署であり、院長を室長に、副院長、看護副部長を副室長に、入院管理課には課長(看護師長)、入院受付事務職員3名(写真1)が、退院支援課には課長(看護師長)、看護師3名(写真2)、ソーシャルワーカー3名(写真3)が配置されています。

入院管理課では救急経由、外来経由あるいは転送依頼などで、入院適応と判断された患者さんを可能な限り受け入れられるよう病床の確保を行います。電子カルテシステムの導入により、病床利用状況はリアルタイムに把握できるようになりました。そこに病床の効率的な管理・運用を組み合わせることで初めて1人でも多くの患者さんを受け入れることが出来ますので、入院管理課はベッドボードに向き合い病棟師長と電話連絡して、日々奮戦しています。また退院支援課は、入院時に病棟での退院調整スクリーニングでリストアップされた種々の問題を抱える患者さんの情報を早期から取得し、退院調整を実施して円滑な退院準備へ向けて病棟間を駆け回っています。両課が同じフロアで情報を共有し、室長、副室長、課長が週1回の定期的なミーティング(写真4)を行って、病床利用の最適化を図っています。



左から池田副院長、小田上師長、依田院長、岡本看護副部長、河野副院長、米戸師長

B7階の入院受付には毎日入院予定の患者さんがエレベーターで上がって来られ、手続きの後、ゆったりとした待合室(写真5)でお茶でも飲みながら病棟からの迎えが到着するまでの時間を過ごしていただいています。外来フロアの大変混雑した中で待っていただいた今までとは大きく様変わりをしました。

5

連携室だより

卷末コラム

27

7月に開催されました病診連携懇話会には200名近い皆様にご参加いただきありがとうございました。

懇親会も例年以上に盛会となり、親密な交流をいただけたことと存じます。

当院の改築整備状況も順調に進んでいます。来年度には管理棟が竣工する予定ですので、いま暫くお待ちください。

また、来年度は消費税率引き上げにより厳しい運営を迫られる中、社会保障審議会医療部会が、平成26年度診療報酬改定の協議を始めており、社会保障・税制一体改革の一環としてどのような改定を進めるつもりなのか、動向を見守る必要があります。

当院としてもこのような状況を踏まえ、皆様と一緒にこの難局を乗り越えるべく、今まで以上に地域医療連携強化に取り組んでいく所存ですので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室

Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202、207、208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】… 京都南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東(右折)へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】… 国道1号線を西進、東山五条交差点を南(左折)へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】…… 竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東(左折)へ九条通りを約500メートル

京都第一赤十字病院

京都市東山区本町15-749 TEL.075-561-1121

地域医療連携室 【直通】TEL.075-533-1280

FAX.075-533-1282